

九州厚生局長 殿

開設者名 学校法人 産業医科大学
理事長 海野

産業医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 24 年度の業務
に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	158人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	358人	5人	359.0人	看護補助者	68人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	12人	2人	12.4人	理学療法士	14人	臨床検査技師	46人
薬剤師	28人	0人	28.0人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.人	視能訓練士	3人	その他	0人
助産師	25人	0人	25.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	675人	12人	683.3人	臨床工学技士	10人	医療社会事業従事者	7人
准看護師	0人	0人	0.人	栄養士	0人	その他の技術員	5人
歯科衛生士	1人	0人	1.人	歯科技工士	1人	事務職員	75人
管理栄養士	5人	0人	5.人	診療放射線技師	32人	その他の職員	39人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	563.8人	5.1人	568.9人
1日当たり平均外来患者数	1,484.2人	62.5人	1,546.7人
1日当たり平均調剤数			1,176.5剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	PCRを用いたニューモシスチス肺炎の診断(第1内科)	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 PCR法を用い、患者の誘発喀痰検体から抽出した微量のDNAを増幅し、Pneumocystis jiroveci DNAの検出に基づく診断を行う技術である。 特に膠原病・リウマチの治療に伴う日和見感染症としてのニューモシスチス肺炎を早期に診断して治療開始することにより、予後の著しい向上を得ている。			
医療技術名	持続皮下血糖測定システム(CGMS)を用いた血糖測定(第1内科)	取扱患者数	132人
当該医療技術の概要 糖尿病患者腹部に刺したセンサーが間質液から5分毎に糖濃度の平均値によって血糖値を算出する技術である。1つのセンサーで最大3日間連続測定が可能で、機器をはずしてPCにデータを送ると、蓄積した測定データからその日の血糖推移のグラフが作成できる。これによりインスリン療法、経口剤を用いた血糖コントロールは言うまでもなく血糖推移のグラフを見せることで患者教育においても著しい効果を発揮している。			
医療技術名	自己免疫疾患に対する免疫吸着療法(第1内科)	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要 抗DNA抗体をはじめとする自己抗体高値の膠原病(SLE、MCTD)等に関して自己抗体に特異的な吸着カラムを用いた体外循環により自己抗体の除去を行なう。 既に産生された自己抗体の物理的除去は、免疫抑制剤との併用により高い効果をもたらしている。			
医療技術名	既存治療抵抗性SLEに対する抗CD20抗体療法	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 既存治療抵抗性全身性エリテマトーデスに対して抗CD20抗体リツキシマブによるB細胞除去を行い、非常に高い疾患活動性を抑制し臓器障害を回避しえた。			
医療技術名	リンパ球表面P糖蛋白発現解析による自己免疫疾患のオーダーメイド治療(第1内科)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 自己免疫疾患の疾患活動性、治療抵抗性を末梢血リンパ球表面上のP糖蛋白の発現により評価し、治療方針の決定に応用するものである。B、Tリンパ球にわけて評価することにより、免疫抑制療法の選択を行いオーダーメイド治療に役立っている。			
医療技術名	自己免疫疾患による活動性間質性肺炎に対するウリナスタチンパルス療法(第1内科)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 強力な免疫抑制療法の継続が困難な自己免疫疾患に伴う活動性間質性肺炎に対して、ウリナスタチンのパルス療法を施行し、感染の誘発などを認めることなく、症状、CT所見などの改善を得ている。			
医療技術名	16SrRNA遺伝子を用いた網羅的な細菌叢解析(呼吸器内科)	取扱患者数	126人
当該医療技術の概要 細菌のみが保有する16SrDNA遺伝子を用いて、検体中の細菌DNAのクローンライブラリーを作製し、それぞれの塩基配列を決定することにより、検体中にどんな細菌がどれくらい存在するかを把握可能であり、感染症診療に役立つ。			
医療技術名	経皮的エタノール注入療法(第3内科)	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要 迅速な組織の脱水固定作用をもち、かつ毒性の少ないエタノールを超音波誘導下に細い穿刺針を用いて肝腫瘍内に注入することにより、腫瘍を壊死させる治療法である。原則として、腫瘍径3cm以下、腫瘍数3病変以下の症例を適応としている。			
医療技術名	経皮経肝的胆道ドレナージ(第3内科)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 経皮経肝的に超音波誘導下に胆管を穿刺し、ドレナージチューブを胆管内に挿入し留置する手技。 胆道閉鎖の減黄や、急性化膿性閉鎖性胆管炎に対する緊急ドレナージとして施行している。 肝内胆管拡張のみられない例に対しては、経皮経肝的胆嚢ドレナージ(PTGBD)も施行している。			

医療技術名	経皮経肝的膿瘍ドレナージ(第3内科)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 PTBDの手技に準じ、肝膿瘍内にドレナージチューブを挿入・留置し、ドレナージをはかっている。			
医療技術名	内視鏡的逆行性胆道ドレナージ(第3内科)	取扱患者数	95人
当該医療技術の概要 経乳頭的に胆管を造影し、閉塞部位を確認した後それに引き続いてガイドワイヤーを用い狭窄部を通過させ、ワイヤーガイド下にドレナージチューブ下にドレナージチューブを胆管内に留置する。主として悪性胆道閉塞例に対し、長いドレナージチューブを留置して、経鼻的に外瘻とする内視鏡手的経鼻胆管ドレナージ(ENBD)と内瘻とする内視鏡的胆管ドレナージ(ERBD)を施行している。			
医療技術名	胆管ステント留置術(第3内科)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 患者のQOLを考慮し、根治手術不能な悪性胆道閉塞に対してメタリックステントを用いて施行している。最近ではポリウレタンでメタリックステントをカバーしたcovered stentを用いている。			
医療技術名	経皮敵ラジオ波焼却療法(第3内科)	取扱患者数	106人
当該医療技術の概要 Radiofrequency ablation(RFA)と呼ばれる治療法は、マイクロ波より周波数の低いラジオ波(460~480KHz)を用いて、腫瘍組織内に熱を発生させ、破壊する方法。超音波誘導下に経皮的に腫瘍部に穿刺する。			
医療技術名	白血球除去療法(第3内科)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 潰瘍性大腸炎の活動期における緩解促進のための顆粒球吸着用白血球除去カラムを使用し、吸着型の血液浄化をする方法。			
医療技術名	超音波内視鏡下吸引針生検(EUS-FNA)(第3内科)	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 膵癌や消化管粘膜下腫瘍に対して、病理学的診断材料に係る目的にて行っている。			
医療技術名	内視鏡的経乳頭胆管生検(第3内科)	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 胆道癌の確定診断のために経乳頭的に生検鉗子を挿入し、透視下に場所を確認し、生検する方法で、従来のブラッシング細胞診に比べ陽性率向上が期待される。			
医療技術名	内視鏡的粘膜剥離術(第3内科)	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 胃癌、食道癌、大腸癌を内視鏡的に切除する方法で、従来の粘膜の切除と比較して、大型の病変を一括に切除できる。現在15mm以上の病変で、この方法により治療している。			
医療技術名	修正型電気けいれん療法(神経・精神科)	取扱患者数	22人
当該医療技術の概要 主に難治性うつ病患者を対象に中央手術室において全麻下で電気けいれんを施行する。			

医療技術名	集団精神療法(神経・精神科)	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 休職者を対象とした集団精神療法			
医療技術名	非血縁臍帯血移植(小児科)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 難治性白血病に対する臍帯血バンクを利用した臍帯血移植			
医療技術名	自家末梢血造血幹細胞移植(小児科)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 小児がんに対する大量化学療法施行時の併用造血幹細胞移植			
医療技術名	遊離空腸食道再建術(第1外科)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 喉頭、頸部食道全摘後に空腸片を採取して、頸部血管と空腸部静脈を吻合(血行再建)し、咽頭空腸、空腸食道を吻合する。			
医療技術名	単孔式内視鏡手術(第1外科)	取扱患者数	83人
当該医療技術の概要 スコープや鉗子などの手術器具を1ヶ所の切開創から挿入して行う術式。整容上の利点などがあり、胆のう摘出術の他、総胆管切石術、肝部分切除術、胃局所切除術等を行っている。			
医療技術名	内視鏡下乳房温存手術(第1外科)	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 温存手術可能な原発性乳癌に対し、腋窩部と傍乳輪の小切開創から内視鏡や鉗子等の手術器具を挿入して行う術式。整容性の向上や出血量減少等の利点がある。			
医療技術名	鏡視下肝胆膵手術(第1外科)	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 肝胆膵領域の疾患に対し、スコープ、鉗子等を用いて行う術式。整容性に優れており、手術侵襲の軽減、QOLの向上により入院期間の短縮につながる。術式としては、肝部分切除や外側区域切除、肝嚢胞開窓術、総胆管切除術、膵頭十二指腸切除術、尾側膵切除等を行っている。			
医療技術名	非小細胞肺癌に対するMAGE-A3がん免疫療法(第2外科)	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 非小細胞肺癌患者を対象とした術後補助療法としてのAS15アジュバント添加、MAGE-A3がん免疫療法剤の有効性を評価するための、二重盲検、無作為化、プラセボ対照、第Ⅲ相臨床試験として施行している。MAGE-A3がん免疫療法により肺癌術後の再発の抑制を期待している。			
医療技術名	慢性疼痛疾患に対する脊髄電気刺激療法(脳神経外科)	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要 中枢神経疾患にともなう慢性の体幹及び四肢の疼痛に対して脊髄硬膜外に電極を設置して疼痛を電気刺激により治療する。			

医療技術名	四肢痙性に対するパクロフェン注入療法(脳神経外科)	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 種々の中枢性疾患により四肢の痙性が強くなり、関節拘縮などにより運動機能障害をきたす。これらの状態に対して、脊髄腔内にパクロフェンを体内に埋め込んだ微量注入ポンプからパクロフェンを注入して治療する。			
医療技術名	脳腫瘍手術における脳機能マッピング(脳神経外科)	取扱患者数	71人
当該医療技術の概要 脳腫瘍(突発性)はあらゆる脳の部位に発生するが、運動、言語などの領域に発生すると摘出の際、重大な後遺症を残す。術中に運動野や言語野を電気刺激してこれらの部位をさけて摘出を行うことで術後の障害を防ぐ。			
医療技術名	術中腫瘍の蛍光診断(脳神経外科)	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要 悪性脳腫瘍、特に神経膠腫の予後はどこまで手術中に摘出できたかに左右される。腫瘍細胞に術前5・ALA(蛍光色素を発生する薬物)を投与し、術中に光をあてることによって発生する蛍光で残存腫瘍をできる限り取り除く。			
医療技術名	金属材料を用いた脊柱再建固定術(整形外科)	取扱患者数	42人
当該医療技術の概要 脊椎の外傷や脊椎の腫瘍により脊椎が不安定になり、脊椎の障害(下肢麻痺)や耐え難い疼痛などを発症する。これらの患者に対しては金属材料を用いて強固な内固定をすることにより、疼痛や麻痺が改善され、しかも術後早期に離床が可能となる。			
医療技術名	頸椎前方固定術、頸椎椎弓形成術(整形外科)	取扱患者数	36人
当該医療技術の概要 頸椎症性脊髄症に対して、我々は頸椎椎弓形成術(椎弓を向開きとして、椎弓を温存し、脊柱管を拡大する)を中心とする後方除圧を目的とした後方進入法と、前方固定術(椎間板切除と骨棘切除し、椎体間を固定する)を中心とした前方除圧を目的とした前方進入法を行っている。			
医療技術名	術中ナビゲーションを用いた脊椎手術(整形外科)	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 リウマチや脳性麻痺患者などに生じた高度な頸椎不安定症に対し、固定力の強固な椎弓根や椎間関節スクリューを用いた後方固定術を行っているが、スクリュー刺入には危険を伴い高度な技術を要する。我々はより安全にスクリュー刺入を行うために、術中ナビゲーションを使用している。また、高度な靭帯骨化(後縦靭帯や黄色靭帯)の除圧操作においてもナビゲーションを用いてより正確により安全に手術操作を実施している。			
医療技術名	内視鏡を用いた低侵襲脊椎手術(整形外科)	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 腰椎椎間板ヘルニアに対し、我々は内視鏡を用いたヘルニア摘出術を行っている。従来のヘルニア手術に比べ侵襲が少なく、術後回復も早い。また、内視鏡を用いることで、より正確な手術操作が可能となる。			
医療技術名	人工股関節(セメントレス)、骨盤骨切り(RAO)(整形外科)	取扱患者数	103人
当該医療技術の概要 社会の高齢化に伴い、関節の退行変性による変形性股関節症症例が増加してきている。我々は、本症に対してセメントレス人工股関節を行っている。本邦では、二次性の変形性股関節症が多く、特に臼蓋形成不全によるものが、約80%を占める。臼蓋形成不全に対しては、骨盤回転骨切り(RAO)を行っている。			
医療技術名	マイクロサージャリー、手関節鏡手術(整形外科)	取扱患者数	61人
当該医療技術の概要 外傷による手指の神経、血管損傷、皮膚欠損に対して顕微鏡下での縫合術を行っている。手関節内の三角線維軟骨損傷や滑膜炎に対しては、手関節鏡視下に処置を行い、最小侵襲による確実な処置で早期の社会復帰を目指している。			

医療技術名	前十字靭帯再建術(整形外科)	取扱患者数	94人
当該医療技術の概要 近年、スポーツ活動が盛んになるに従い、膝関節の外傷も増加している。靭帯損傷の中でも前十字靭帯損傷は頻度が高く、放置すればスポーツ活動に支障をきたし変形性関節症も進行する。この前十字靭帯損傷に対し我々は小さな創で大きな可動域と安定性を獲得すべく半腱様筋、薄筋腱を用いた鏡視下靭帯再建術を行っている。			
医療技術名	股関節鏡視下手術(整形外科)	取扱患者数	142人
当該医療技術の概要 Femoroacetabular impingement syndromeと呼ばれる股関節における臼蓋と大腿骨頭～頸部にかけてのインピンジメントは変形性股関節症を惹起しうる病態と考えられている。これに対し股関節鏡視下にインピンジメントを解除するため、臼蓋および大腿骨頭部のトリミング、股関節唇の修復を行なっている。			
医療技術名	肩関節鏡視下関節制動術(整形外科)	取扱患者数	45人
当該医療技術の概要 反復性肩関節脱臼の患者は肩関節の関節唇が損傷され、また関節包が弛緩している。これらを鏡視下に修復することで関節の制動を獲得する手術を関節鏡視下に行っている。			
医療技術名	肩関節鏡視下腱板修復術(整形外科)	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 肩関節腱板損傷に対して従来はMcLaulin法などのOpenでの修復術が行われていたが、当院では肩関節周囲筋の侵襲を軽減でき、スムーズな後療法を実現するために関節鏡視下にアンカーを用いて修復術を行っている。 また、広範囲腱板断裂に対しては、下肢の靭帯、筋膜を用いパッチを作成し、関節包再建術を行っている。			
医療技術名	脊椎靭帯骨化症に対する脊椎手術(整形外科)	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 後縦靭帯骨化症や黄色靭帯骨化症は特定疾患に指定されている難病である。靭帯の骨化増大により脊柱管内が狭小化し脊髄圧迫をきたして運動機能が著しく損なわれている方には除圧術や骨化除去、骨化浮上などの手術的治療を行い脊髄機能、運動機能の改善に取り組んでいる。			
医療技術名	脊椎腫瘍、脊髄腫瘍に対する手術(整形外科)	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 転移性脊椎腫瘍や原発性脊椎腫瘍に対して完全摘出を目的とした脊椎全摘出術や脊髄機能の回復を目的とした除圧固定術を行っている。また脊髄腫瘍に対しては顕微鏡視下に腫瘍摘出術を行っている。			
医療技術名	生体内吸収性プレートを用いた手の骨折手術(整形外科)	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 我々は、ハイドロキシアパタイトとポリL乳酸の複合体からなる生体内吸収性材料を用いて手の骨折を治療している。68度の温水に浸けると、この材料はやわらかくなり骨の彎曲によく適合させることができる。従来の金属製プレートと比べて、解剖学的に複雑な骨形状に、より対応可能であり、抜去手術が不要という利点がある。			
医療技術名	持続吸引システムを用いた皮膚欠損を伴った手部外傷の手術(整形外科)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 我々は、低圧持続吸引システムを用いて、皮膚欠損を伴った手部外傷を治療している。本システムは初期治療から用いることができ、肉芽形成を促進した上で、皮弁形成などの二期手術を行っている。			
医療技術名	遊離空腸移植による食道再建(形成外科)	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 耳鼻科、消化器外科における下咽頭癌手術後の食道再建を遊離空腸移植によって行う。			

医療技術名	前立腺癌に対する腹腔鏡下前立腺全摘出術(泌尿器科)	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要 従来、眼局性前立腺癌に対して開腹による前立腺全摘出術を施行してきたが、創痛や出血など患者に対する負担が大きな手術であった。今回、我々は指導医のもと腹腔鏡下で、より低侵襲な前立腺全摘出術を開始した。開腹術と比較し合併症も遜色なく、良好な結果を得ており患者の満足度も向上している。			
医療技術名	突発性難聴(難病)の鼓室内ステロイド注入(耳鼻咽喉科)	取扱患者数	54人
当該医療技術の概要 突発性難聴は主に、一側性の急激な高度感音性難聴を来す疾患であり、時にめまいをともなう。その原因についていまだ定説はない。しかし、原因がいずれにしても内耳の酸素摂取量を増加させることは障害された内示の代謝の改善、組織の修復等に寄与すると考えられる。本院においては、上記疾患に対し、鼓室内ステロイド注入を施行して、好成績をおさめている。			
医療技術名	睡眠時無呼吸症候群の診断と治療(耳鼻咽喉科)	取扱患者数	120人
当該医療技術の概要 睡眠時無呼吸症候群は最近一層注目されてきた疾患である。当院では関連検査機器を整備して、この疾患の診断と治療を行っている。睡眠時無呼吸症候群の診断にあたってはその重症度と原因部位診断について留意して検査を行い加療の指針としている。			
医療技術名	選択的動注法による抗癌剤投与療法(耳鼻咽喉科)	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 癌組織へ選択的に且つ高濃度の抗癌剤を投与する選択的動注法では、殺腫瘍効果の増強と副作用の軽減が期待できる。頭頸部領域では主に上顎癌や舌・口腔底癌において、この選択的動注法の使用が考えられる。本院においては、浅側頭動脈より逆行性にチューブを挿入し、上顎癌と舌癌においてこの選択的動注法を行っている。			
医療技術名	経頭蓋磁気刺激治療と上肢ロボット支援訓練の併用療法(リハビリテーション科)	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 維持期脳卒中患者に対し経頭蓋的に磁気刺激を行うことで、健側大脳の興奮性を抑え、障害側大脳の機能代償を増大させる。また、磁気治療に加えて上肢ロボット支援訓練を併用することで上肢の機能向上を図る。			
医療技術名	経頭蓋直流電気刺激下ロボット支援訓練(リハビリテーション科)	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 維持期脳卒中患者に対し、経頭蓋的に直流電気刺激を行った後、上肢ロボット支援訓練(アームトレーナー)を行い、麻痺側上肢の運動機能改善を図る。			
医療技術名	骨髄移植(化学療法センター・血液科)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 治療抵抗性造血器腫瘍及び造血不全に対して、健全な骨髄を移植することにて治療を目指す。			
医療技術名	末梢血幹細胞移植(化学療法センター・血液科)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 治療抵抗性造血器腫瘍及び造血不全に対して、末梢血より得られた造血幹細胞を移植することにて治療を目指す。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	87人	・膿疱性乾癬	8人
・多発性硬化症	57人	・広範脊柱管狭窄症	12人
・重症筋無力症	78人	・原発性胆汁性肝硬変	48人
・全身性エリテマトーデス	308人	・重症急性膵炎	15人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	28人
・再生不良性貧血	45人	・混合性結合組織病	50人
・サルコイドーシス	69人	・原発性免疫不全症候群	3人
・筋萎縮性側索硬化症	16人	・特発性間質性肺炎	23人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	195人	・網膜色素変性症	31人
・特発性血小板減少性紫斑病	41人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	43人	・肺動脈性肺高血圧症	3人
・潰瘍性大腸炎	124人	・神経線維腫症	8人
・大動脈炎症候群	15人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	3人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	22人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3人
・脊髄小脳変性症	43人	・ライソゾーム病	3人
・クローン病	64人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	80人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	211人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	10人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	4人
・後縦靭帯骨化症	58人	・肥大型心筋症	1人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	27人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	14人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	18人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	23人	・黄色靭帯骨化症	0人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	61人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ストレスに対するホメオサーベイランスのダイナミクスと疾患制御	田中 良哉	第1内科学	8,800,000	補委 文部科学省科学研究費
膠原病疾患の組織リモデリングにおける上皮・血管内皮-間葉転換機構解明と治療展開	齋藤 和義	第1内科学	1,300,000	補委 学術研究助成基金助成金
膠原病治療をマスト細胞という新視点からブレークスルーする	澤向 範文	第1内科学	1,600,000	補委 学術研究助成基金助成金
Btkを標的としたSLEの新規治療開発および同分子による分子生物学的評価法の確立	岩田 慈	第1内科学	1,600,000	補委 学術研究助成基金助成金
関節リウマチの関節破壊機序の解明と関節破壊「ゼロ」を目指す治療法確立に関する研究	田中 良哉	第1内科学	4,680,000	補委 厚生労働省科学研究費
関節リウマチに対する生物学的製剤の作用機序、投与方法、治療効果等に関する研究	田中 良哉	第1内科学	2,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
免疫疾患におけるT細胞サブセットの機能異常とその修復法の開発	田中 良哉	第1内科学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
我が国における関節リウマチ治療の標準化に関する多層的研究	平田 信太郎	第1内科学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
IgG4関連疾患に関する調査研究	田中 良哉	第1内科学	1,100,000	補委 厚生労働省科学研究費
特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究	田中 良哉	第1内科学	2,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
難治性SLEに対するボルテゾミブ療法の有効性・安全性検証試験	田中 良哉	第1内科学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
自己免疫疾患に関する調査研究	田中 良哉	第1内科学	3,400,000	補委 厚生労働省科学研究費
ベーチェット病に関する調査研究	齋藤 和義	第1内科学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
マルチスライスCTによる大動脈弁および弁周囲組織の非侵襲的評価-心エコーとの比較	津田 有輝	第2内科学	400,000	補委 文部科学省科学研究費
慢性心不全症例に対する運動負荷三次元心エコー図検査による評価の有用性	芳谷 英俊	第2内科学	725,694	補委 学術研究助成基金助成金

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
透析患者における薬剤溶出ステントの効果・再狭窄の原因及びその予知マーカーの検討	園田 信成	第2内科学	484,045	補委 学術研究助成基金助成金
老人性大動脈弁狭窄症における僧帽弁輪・弁尖への石灰化進展による僧帽弁狭窄の合併	竹内 正明	第2内科学	877,313	補委 学術研究助成基金助成金
収縮中後期僧帽弁逸脱における左室・僧帽弁連関(乳頭筋の異常上方運動)の役割	尾辻 豊	第2内科学	1,348,674	補委 学術研究助成基金助成金
STOPDAPT研究:エベロリムス溶出性コバルトクロムステント(XIENCE Prime)留置後のThienopyridine投与期間を3ヶ月間に短縮することの安全性を評価する探索的研究	尾辻 豊	第2内科学	560,000	補委 財団法人生産開発科学研究所
蛋白・脂質代謝異常による小胞体ストレスを伴う肝細胞障害でのオートファジーの役割	原田 大	第3内科学	1,306,103	補委 学術研究助成基金助成金
手技のオートメーション化を目指した内視鏡ロボットの開発	久米恵一郎	第3内科学	1,076,736	補委 学術研究助成基金助成金
腸管蠕動運動を再現したインテリジェント大腸内視鏡トレーニングモデルの開発	久米 恵一郎	第3内科学	819,000	補委 公益財団法人北九州産業学術推進機構
早期糖尿病の進展抑制に関する無作為化比較臨床試験	原田 大	第3内科学	100,000	補委 日本糖尿病進展抑制研究会
インテリジェント大腸内視鏡トレーニングモデルの開発	久米 恵一郎	第3内科学	900,000	補委 公益財団法人北九州産業学術推進機構
網羅的細菌叢解析を用いた細菌性肺炎における起因菌のエピデミオロジーの構築	迎 寛	呼吸器内科学	1,100,000	補委 学術研究助成基金助成金
一酸化窒素合成酵素完全欠損マウスでの胞隔炎及び気腫性変化の機序的検討	矢寺 和博	呼吸器内科学	1,600,000	補委 学術研究助成基金助成金
非結核性抗酸菌症の気道病変に対する嫌気性菌群の役割の検討	川波 敏則	呼吸器内科学	1,600,000	補委 学術研究助成基金助成金
他者比較における自己評価:摂食障害を対象とした機能画像研究	兒玉 直樹	神経内科学	266,400	補委 学術研究助成基金助成金
てんかんの有病率等に関する疫学研究及び診療実態の分析及治療体制の整備に関する研究	赤松 直樹	神経内科学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
てんかんの診断と治療に関する戦略的医療についての研究	辻 貞俊	神経内科学	1,000,000	補委 国立精神・神経医療研究センター、国立がん研究センター

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
遺伝子型に基づくカルバマゼピンのオーダーメイド投薬検証に関する前向き臨床研究	赤松 直樹	神経内科学	1,260,000	補委 (独)理化学研究所 横浜研究所 ゲノム医学研究センター
せん妄の病態と治療に関する前向き研究の試み	中村 純	精神医学	2,100,000	補委 学術研究助成基金助成金
うつ病に対する運動療法の効果メカニズムに関する画像・精神薬理学的検討	杉田 篤子	精神医学	500,000	補委 文部科学省科学研究費
統合失調症患者の復職成功のカギは何か?	堀 輝	精神医学	500,000	補委 学術研究助成基金助成金
抗精神病薬の多剤大量投与の安全で効果的な是正に関する臨床研究	吉村 玲児	精神医学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
うつ病患者に対する復職支援体制の確立 うつ病患者に対する社会復帰プログラムに関する研究	中村 純	精神医学	1,100,000	補委 厚生労働省科学研究費
精神・神経疾患のバイオマーカーの探索と臨床応用に関する研究	吉村 玲児	精神医学	1,500,000	補委 国立精神・神経医療研究センター、国立がん研究センター
PFAPA症候群の発熱発作予防におけるシメチジンの作用機序の解明	楠原 浩一	小児科学	1,500,000	補委 学術研究助成基金助成金
胎児期に起因する生活習慣病発症における脳末梢連関の異常と生後の栄養介入による予防	山本 幸代	小児科学	1,498,295	補委 学術研究助成基金助成金
非遺伝性周期性発熱症候群におけるバイオマーカーの検討と病態の解明	佐藤 哲司	小児科学	1,180,357	補委 学術研究助成基金助成金
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	楠原 浩一	小児科学	1,600,000	補委 厚生労働省科学研究費
TNF受容体関連周期性症候群(TRAPS)の病態解明と診断基準作成に関する研究	楠原 浩一	小児科学	500,000	補委 厚生労働省科学研究費
全ゲノムエクソン配列解析法による先天性内分泌疾患の分子基盤の解明	荒木 俊介	小児科学	750,000	補委 厚生労働省科学研究費
降癌幹細胞におけるエピジェネティックな遺伝子発現制御機構の解明とその臨床応用	佐藤 典宏	第1外科学	1,000,000	補委 文部科学省科学研究費
大腸癌における合成レチノイドの核内レセプター制御による分化誘導作用の解明	中山 善文	第1外科学	1,300,000	補委 学術研究助成基金助成金

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
がん登録からみたがん診療ガイドラインの普及効果に関する研究—診療動向と治療成績の変化—	山口 幸二	第1外科学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
悪性胸膜中皮腫における末梢血液中バイオマーカーの開発	田中 文啓	第2外科学	4,649,879	補委 文部科学省科学研究費
肺癌所属リンパ節における制御性T細胞の意義と免疫抑制機構の解除	花桐 武志	第2外科学	1,223,850	補委 学術研究助成基金助成金
悪性胸膜中皮腫における診断および治療の標的となる腫瘍関連遺伝子の探索	竹中 賢	第2外科学	1,198,640	補委 学術研究助成基金助成金
マイクロ流体チップシステムによる肺癌での循環腫瘍細胞の高感度検出法の開発	岡 壮一	第2外科学	1,251,552	補委 学術研究助成基金助成金
乳癌の上皮間葉移行における接着分子の意義およびその制御による新たな治療法の確立	永田 好香	第2外科学	1,200,000	補委 学術研究助成基金助成金
肺癌の免疫逃避の解明とその克服法の検討	重松 義紀	第2外科学	1,343,719	補委 学術研究助成基金助成金
切除可能悪性胸膜中皮腫に対する集学的治療法の確立に関する研究	田中 文啓	第2外科学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
エストロゲン受容体陽性HER2陰性乳癌に対するS-1術後療法ランダム化比較第Ⅲ相試験	田中 文啓	第2外科学	100,000	補委 財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
クモ膜下出血後の脳血管攣縮に対する蛋白リン酸化酵素Cをターゲットにした創薬の研究	西澤 茂	脳神経外科学	500,000	補委 文部科学省科学研究費
「低侵襲手術支援システムの実用化開発と臨床研究」(低侵襲手術支援システムの脳神経外科領域における臨床研究)	西澤 茂	脳神経外科学	450,000	補委 独立行政法人科学技術振興機構
荷重の増減による間葉系幹細胞から骨・血管・脂肪への分化調節機構の解明とその制御	酒井 昭典	整形外科学	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費
変形性関節症の関節変性と骨棘形成機構の解明—時間・組織特異的KOマウスによる解析	中村英一郎	整形外科学	800,000	補委 文部科学省科学研究費
光遺伝学的アプローチによる疼痛受容機構の解明および疼痛制御法の開発	大西 英生	整形外科学	1,590,960	補委 学術研究助成基金助成金
自己炎症性疾患TRAPSモデルマウス作製と新規治療法の開発	中村 元信	皮膚科学	1,380,161	補委 学術研究助成基金助成金

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
自己炎症性疾患TRAPSの炎症誘発と病態の解明	大森 俊	皮膚科学	608,925	補委 学術研究助成基金助成金
悪性黒色腫における免疫抑制マーカーの探索的研究	吉岡 はるな	皮膚科学	822,715	補委 学術研究助成基金助成金
尋常性乾癬の病態形成における皮膚樹状細胞の機能解明	吉木 竜太郎	皮膚科学	1,710,089	補委 学術研究助成基金助成金
光線過敏症におけるナイアシンを介した皮膚免疫応答の解明	杉田 和成	皮膚科学	1,409,077	補委 学術研究助成基金助成金
成人T細胞性白血病／リンパ腫における皮疹治療の統計学的検討と抗腫瘍効果	澤田 雄宇	皮膚科学	1,850,760	補委 学術研究助成基金助成金
シェーグレン症候群の外分泌腺異常における上皮-間葉転換の意義と新規治療法の開発	廣正 佳奈	皮膚科学	1,200,000	補委 文部科学省科学研究費
腎細胞癌における新規VHL関連蛋白の発見とその分子間相互作用と細胞応答の究明	吉田 毅	泌尿器科学	1,182,936	補委 学術研究助成基金助成金
性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究	松本 哲朗	泌尿器科学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
小児網膜剥離の疾患概念の構築: Coats病の病因解明	近藤 寛之	眼科学	700,000	補委 文部科学省科学研究費
緑内障と酸化ストレス	宮本 直哉	眼科学	1,800,000	補委 学術研究助成基金助成金
中耳真珠腫組織における水素イオン濃度と水素イオンセンサー蛋白からみた骨吸収機序	鈴木 秀明	耳鼻咽喉科学	1,000,000	補委 文部科学省科学研究費
アレルギー性鼻炎におけるTh2サイトカイン制御因子としてのZNF143の機能解析	若杉 哲郎	耳鼻咽喉科学	400,000	補委 文部科学省科学研究費
嗅球バゾプレッシン細胞の分子生理学的特性の解明	大淵 豊明	耳鼻咽喉科学	614,957	補委 学術研究助成基金助成金
構造的転写共役因子を分子標的とした婦人科悪性腫瘍治療と薬剤耐性機構の解明	蜂須賀 徹	産婦人科学	700,000	補委 文部科学省科学研究費
外科的侵襲が免疫能抑制、臓器障害をおこす機序の解明とその制御法の開発	川崎 貴士	麻酔科学	1,000,000	補委 文部科学省科学研究費

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

計15 計75

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
癌性疼痛に対する新たな鎮痛薬開発を目指したATP受容体に関する疼痛機序の解明	佐多 竹良	麻酔科学	1,100,000	補委 文部科学省科学研究費
新しい神経障害性疼痛治療薬としてのカリウムチャンネル開口薬の行動薬理学的研究	原 幸治	麻酔科学	1,465,814	補委 学術研究助成基金助成金
ATP感受性カリウムチャンネル開口薬の鎮痛作用に関する行動薬理学的研究	原西 保典	麻酔科学	492,924	補委 学術研究助成基金助成金
神経障害性疼痛治療薬の開発を目指した内因性カンナビノイドの疼痛抑制機序の全貌解明	堀下 貴文	麻酔科学	1,397,190	補委 学術研究助成基金助成金
神経障害性疼痛に対するフリーラジカル消去薬の鎮痛作用および予防効果に関する研究	中村 元洋	麻酔科学	470,777	補委 学術研究助成基金助成金
全身麻酔薬の作用機序解明を目指したTRP受容体に対する全身麻酔薬の影響解析	寺田 忠徳	麻酔科学	1,100,000	補委 文部科学省科学研究費
視床下部ミクログリアに焦点をあてた熱射病の病態生理解明と治療法の開発	川崎 知佳	麻酔科学	662,057	補委 学術研究助成基金助成金
反復経頭蓋磁気刺激による失語症治療効果と脳活動パターン変化に関する検討	岡崎 哲也	リハビリテーション医学	899,998	補委 学術研究助成基金助成金
上肢訓練ロボットへの振動刺激による運動錯覚の応用	和田 太	リハビリテーション医学	498,700	補委 学術研究助成基金助成金
頭部挙上訓練が嚥下障害を有する維持期脳卒中患者の嚥下内圧に及ぼす影響	高橋 真紀	リハビリテーション医学	300,000	補委 学術研究助成基金助成金
ポリオ後症候群発症と酸化ストレスの関係	松嶋 康之	リハビリテーション医学	593,958	補委 学術研究助成基金助成金
高次脳機能障害者に対する経頭蓋直流電気刺激の自動車運転能力への効果	加藤 徳明	リハビリテーション医学	2,082,672	補委 学術研究助成基金助成金
脳梗塞後遺症に対する脳循環・代謝改善薬(ニセルゴリン)の気分障害への効果	伊藤 英明	リハビリテーション医学	1,125,159	補委 学術研究助成基金助成金
高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究	蜂須賀研二	リハビリテーション医学	1,200,000	補委 厚生労働省科学研究費
スモン患者の障害とQOLの検討	蜂須賀研二	リハビリテーション医学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
被災地の遠隔医療に貢献できる自立型歩行リハビリ支援システムの開発	和田 太	リハビリテーション医学	85,000	補 委 独立行政法人科学技術振興機構
強毒株クロストリディウム・デフィシル菌アウトブレイク防止体制構築についての研究	芳川 一郎	内視鏡部	726,920	補 委 学術研究助成基金助成金
PHSRNペプチドによる腹膜再生機構の薬理的解明と臨床応用	田村 雅仁	腎センター	1,242,091	補 委 学術研究助成基金助成金
低酸素環境における口腔癌細胞の悪性化に関する研究	宮脇 昭彦	歯科・口腔外科	2,189,013	補 委 学術研究助成基金助成金
血中ミネラル濃度が細胞外抗酸化防御機構に与える影響	亀崎 文彦	救急部	1,700,000	補 委 学術研究助成基金助成金
新規細胞膜エストロゲン受容体の作動薬の検索とその抗ストレス効果	高橋浩二郎	薬剤部	824,901	補 委 学術研究助成基金助成金

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Rheumatol 39:486-495 (2012年4月)	Safety and efficacy of various dosages of ocrelizumab in Japanese patients with rheumatoid arthritis with an inadequate response to methotrexate therapy: a placebo-controlled double-blind parallel-group study	Tanaka, Y.	第1内科学
Curr Opin Rheumatol 24:319-326 (2012年4月)	Intensive treatment and treatment holiday of TNF-inhibitors in rheumatoid arthritis	Tanaka, Y.	第1内科学
PLoS Genet 8:1-10 (2012年4月)	A genome-wide association study identified AFF1 as a susceptibility locus for systemic lupus erythematosus in Japanese	Okada, Y.	第1内科学
Mod Rheumatol 22:186-194 (2012年4月)	Structural damages disturb functional improvement in patients with rheumatoid arthritis treated with etanercept	Tanaka, Y.	第1内科学
Ann Rheum Dis 71:70-74 (2012年4月)	In vitro and in vivo analysis of a JAK inhibitor in rheumatoid arthritis	Tanaka, Y.	第1内科学
Blood 119:5575-5583 (2012年6月)	Cell-autonomous role of TGF β and IL-2 receptors in CD4(+) and CD8(+) inducible regulatory T-cell generation during GVHD	Sawamukai, N.	第1内科学
J Allergy Clin Immunol 129:1594-1064 (2012年6月)	Amplification of Toll-like receptor-mediated signaling through spleen tyrosine kinase in human B-cell activation	Iwata, S.	第1内科学
Arthritis Rheum 64:3355-3363 (2012年10月)	Interleukin-1 β induces differentiation of human mesenchymal stem cells into osteoblasts via the Wnt-5a/receptor tyrosine kinase-like orphan receptor 2 pathway	Okada, Y.	第1内科学
Ann Rheum Dis 71:1749-1750 (2012年10月)	B cell or T cell-dominant recurrence after rituximab therapy in patients with SLE	Iwata, S.	第1内科学
九州リウマチ 32:108-112 (2012年11月)	肺多発空洞影を呈した結節性多発動脈炎(PN)の一例	齋藤 和義	第1内科学
J UOEH 34:353-361 (2012年11月)	低血糖発作との鑑別が重要であった体位性起立頻脈症候群の1例	岡田 洋右	第1内科学
Mod Rheumatol 22:814-823 (2012年12月)	Discontinuation of adalimumab treatment in rheumatoid arthritis patients after achieving low disease activity.	Tanaka, Y.	第1内科学
Ann Rheum Dis 71:2058-2059 (2012年12月)	Phenotypic changes of lymphocyte in a patient with IgG4-related disease after corticosteroid therapy	Iwata, S.	第1内科学
Intern Med 52:281-284 (2013年1月)	Juvenile-onset hereditary pheochromocytoma-paranglioma syndrome	Okada, Y.	第1内科学
Rheumatology (Oxford) 52:1202-1207 (2013年2月)	A multi-biomarker score measures rheumatoid arthritis diseaseactivity in the BeSt study	Hirata, S.	第1内科学
J UOEH 35:25-31 (2013年3月)	Iatrogenic osteomalacia:report of two cases	Yamamoto,S.	第1内科学
J Bone Miner Metab 31:89-95 (2013年3月)	Effects of raloxifene on lipid and bone metabolism in postmenopausal women with type 2 diabetes	Mori, H.	第1内科学
J Bone Miner Metab 31:123-127 (2013年3月)	A case of multiple brown tumors with primary hyperparathyroidism	Mori, H.	第1内科学
Ann Rheum Dis 72:124-127 (2013年3月)	Next stage of RA treatment: is TNF inhibitor-free remission a possible treatment goal?	Tanaka, Y.	第1内科学
Arthritis Rheum 65:559-570 (2013年3月)	Tofacitinib (CP-690,550) in patients with rheumatoid arthritis receiving methotrexate: twelve-month data from a twenty-four-month phase III randomized radiographic study.	Tanaka, Y.	第1内科学

20件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
JACC cardiovascular imaging 5(2):230-236 (2012年5月)	Mechanism of asymmetric leaflet tethering in Ischemic mitral regurgitation	Yoshitani, H.	第2内科学
Lice Sci 90(23):917-923 (2012年6月)	Impacts of icodextrin on integrin-mediated wound healing of peritoneal mesothelial cells	Tamura, M.	第2内科学
Circulation 126(11):214-221 (2012年9月)	Evidence of a vicious cycle in mitral regurgitation with prolapse:secondary tethering attributed to primary prolapse demonstrated by three-dimensional echocardiography exacerbates regurgitation	Ohtani, K.	第2内科学
Editorial J cardiol cases 6(3):91-92 (2012年9月)	Defining a role of intravascular ultrasound in percutaneous coronary intervention	Sonoda, S.	第2内科学
Circulation Journal 77(2):363-371 (2012年9月)	coronary arterial remodeling and out-stent plaque change after drug-eluting stent implantation-Comparison between zotarolimus-eluting stents and paclitaxel-eluting stents	Muraoka, Y.	第2内科学
Circulation Journal 76(11):2623-2632 (2012年11月)	Normal range of left ventricular 2-dimensional strain	Takeuchi, M.	第2内科学
Int J Cardiovasc Imaging 28:1635-1641 (2012年11月)	Evaluation of in-stent neointimal tissue components using integrated backscatter intravascular ultrasound	Muraoka, Y.	第2内科学
J Am Coll Cardiol 59:1058-1072 (2012年12月)	Intravascular optical coherence tomography standardization and validation	Sonoda, S.	第2内科学
J Cardiol Cases 6(5):126-129 (2012年12月)	Intravascular ultrasound and histopathological observations in a patient with very late sirolimus-eluting stent thrombosis	Sonoda, S.	第2内科学
J Am Soc Echocardiogr 25(12):1319-1326 (2012年12月)	Measurement of left atrial volume from transthoracic three-dimensional echocardiographic datasets using the biplane Simpson's technique	Iwataki, M.	第2内科学
J Cardiovasc Electrophysiol 24(4):381-387 (2013年1月)	Ethnic differences in atrial fibrillation identified using implantable cardiac devices	Abe, H.	第2内科学
Heart, Lung and Circulation 22(4):300-302 (2013年1月)	Immediate amelioration of mechanical pulsus alterations by adaptive servo-ventilation therapy	Haruki, N.	第2内科学
Hypertension Res 36(5):398-402 (2013年2月)	Association of seasonal variation in the prevalence of metabolic syndrome with insulin resistance	Kamezaki, F.	第2内科学
Circulation 127:766-768 (2013年2月)	The unsaddled annulus	Otsuji, Y.	第2内科学
Internal Medicine 51(7):727-732 (2012年4月)	Poorly differentiated neuroendocrine carcinoma of the pancreas responsive to combination therapy with gemcitabine and S-1	Yamamoto, M.	第3内科学
Autophagy 8(4):445-544 (2012年4月)	Guidelines for the use and interpretation of assays for monitoring autophagy	Harada, M.	第3内科学
肝臓 53(5):291-297 (2012年5月)	遷延した混合型薬物性肝障害に対して茵陳蒿湯を含む多剤薬物療法が有効であった2例	原田 大	第3内科学
The FASEB Journal 26(6):2318-2326 (2012年6月)	Keratin 8 phosphorylation regulates its transamidation and hepatocyte Mallory-Denk body formation	Harada, M.	第3内科学
J Histochem Cytochem 60(6):475-483 (2012年6月)	Aging modulates susceptibility to mouse liver Mallory-Denk body formation	Harada, M.	第3内科学
Progress in Medicine 32(6):1313-1316 (2012年6月)	高血圧患者におけるカルシウムチャネル拮抗薬の先発医薬品から後発医薬品への切り替えによる臨床効果の比較	林 海輝	第3内科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床と研究 89(6):842-848 (2012年6月)	多血性肝内胆管癌の1切除例	草永 真志	第3内科学
Nutrition and Metabolic Insights 5:49-58 (2012年8月)	Adding diet and exercise counseling to the health promotion plan alleviates anthropometric and metabolic complications in patients with metabolic syndrome	Harada, M.	第3内科学
Hepatology Research 42(9):940-944 (2012年9月)	Churg-Strauss syndrome manifesting as cholestasis and diagnosed by liver biopsy	Harada, M.	第3内科学
肝臓 53(9):654-659 (2012年9月)	ソラフェニブ投与開始直後は進行(PD)であったが、少量投与にて4ヶ月以後に著明な抗腫瘍効果を認めた肝細胞癌の1例	大江 晋司	第3内科学
糖尿病 55(9):717-721 (2012年9月)	インスリンアナログ製剤の変更による血統変動の改善を持続血糖モニターにて観察した降性糖尿病の1例	田口 雅史	第3内科学
Regulatory Peptides 178:80-85 (2012年10月)	Valsartan, a specific angiotensin II receptor blocker, inhibits pancreatic fluid secretion via vagal afferent pathway in conscious rats	Yamamoto, M.	第3内科学
Endoscopy 44:399-400 (2012年11月)	Endoscopic submucosal dissection using the endoscopic operation robot	Kume, K.	第3内科学
肝臓 53(12):814-820 (2012年12月)	長期にわたり統合失調症として加療されたウイルソン病の1例	久米井 伸介	第3内科学
化学工業 64(1):20-28 (2013年1月)	消化器内視鏡治療における新しいデバイスの開発	久米 恵一郎	第3内科学
Chest 141(1):176-182 (2012年7月)	Detection of MALT1 Gene Rearrangements in BAL Fluid Cells for the Diagnosis of Pulmonary Mucosa-Associated Lymphoid Tissue Lymphoma	Kido, T.	呼吸器内科学
気管支学 34(5):428-431 (2012年9月)	気管支洗浄液の16S ribosomal RNA遺伝子検索で診断に至ったNocardia abscessusによる肺ノカルジア症の1例	原 可奈子	呼吸器内科学
呼吸 32(3):272-273 (2013年3月)	特徴的な画像所見を呈したウエステルマン肺吸虫症の1例	笹原 陽介	呼吸器内科学
European Respiratory review 22(127):98-99 (2013年3月)	Progressive metastatic pulmonary calcification after successful renal transplantation	Yatera, K.	呼吸器内科学
Intern Med 51:991-992 (2012年4月)	Ring-enhanced brainstem lesion in a patient with neuro-behcet's disease	Okada, K.	神経内科学
神経治療 29(3):341-345 (2012年7月)	高齢発症てんかんの治療に対するエキスパートオピニオン研究	山野 光彦	神経内科学
Journal of the Neurological Sciences 323(1-2):85-92 (2012年12月)	Familial ALS with FUS P525L mutation:two Japanese sisters with multiple systems involvement	Hashimoto, T.	神経内科学
Epilepsia 54:33-36 (2013年3月)	Mesial temporal lobe epilepsy as a neuropsychiatric syndrome of systemic lupus erythematosus	Toyoda, T.	神経内科学
Nicotine & Tobacco Research 14(4):486-489 (2012年4月)	Plasma levels of metabolites of catecholamine in nicotine-dependent patients treated with varenicline	Nakano, W.	精神医学
Neuropsychiatric Disease and Treatment 8:119-122 (2012年4月)	Six-month treatment with atypical antipsychotic drugs decreased frontal-lobe levels of glutamate plus glutamine in early-stage first-episode schizophrenia	Goto, N.	精神医学
日精協雑誌 31(4):83-89 (2012年4月)	精神科の医療施設における抗うつ薬使用の現状と課題福岡県下の多施設調査および産業医科大学病院の処方動向から	中野 和歌子	精神医学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
The Pharmacogenomics Journal 13(4):354-358 (2012年4月)	Possible association of CUX1 gene polymorphisms with antidepressant response in major depressive disorder	Nakano, W.	精神医学
最新精神医学 17(3):277-282 (2012年5月)	神経性無食欲症に対して行動療法的アプローチを行った1症例	山田 健治	精神医学
General Hospital Psychiatry 35(1):7-9 (2012年5月)	Aripiprazole improves various cognitive and behavioral impairments after traumatic brain injury:a case report	Nakano, W.	精神医学
臨床精神医学 41(5):1-10 (2012年5月)	双極性障害患者におけるアリピプラゾールと気分安定薬の併用について	寺尾 岳	精神医学
International Journal of Psychiatry Clinivcal Practice 16(2):138-142 (2012年6月)	Several prescription patterns of antipsychotic drugs influence cognitive functions in Japanese chronic schizophrenia patients	Hori, H.	精神医学
臨床精神薬理 15(7):1201-1206 (2012年7月)	遅発性アルツハイマー型認知症の認知機能障害に対しmemantineが奏功した1例	安庭 愛子	精神医学
Neuroscience Letters 529(1):66-69 (2012年7月)	An evaluation of polymorphisms in casein kinase 1 delta and epsilon genes in major psychiatric disorders	Yoshimura, R.	精神医学
Progress in Neuro-Psychopharmacology & Biological Psychiatry 39(2):355-357 (2012年7月)	Comparison of the efficacy between paroxetine and sertraline augmented with aripiprazole in patients with refractory major depressive disorder	Yoshimura, R.	精神医学
Pharmacopsychiatry 46(2):77-82 (2012年7月)	Possible association of nicotinic acetylcholine receptor gene (CHRNA4 and CHRNB2) polymorphisms with nicotine dependence in Japanese males: An exploratory study	Shinkai, T.	精神医学
European Journal Archires of Psychiatry Clinical Neuroscience 263(2):105-118 (2012年7月)	The serotonin 1A receptor gene donfer susceptibility to mood disorders:results from an extended meta-analysis of patients with major depression and bipolar disorder	Yoshimura, R.	精神医学
Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol 47(7):1061-1075 (2012年7月)	Dose the 'hikikomori' syndrome of social withdrawal exist outside Japan? A preliminary international investigation	Nakano, W.	精神医学
CNS Spectrums 17(3):155-163 (2012年9月)	Serum levels of brain-derived neurotrophic factor (BDNF),BDNF gene Val66Met polymorphism, or plasma catecholamine metabolites, and response to mirtazapine in Japanese patients with major depressive disorder (MDD)	Katsuki, A.	精神医学
Journal of UOEH 34:225-229 (2012年9月)	Erythema annulare centrifugum associated with herpes zoster	Sugita, A.	精神医学
BMC Psychiatry 12(169):1186-1192 (2012年10月)	Hikikomori as a possible clinical term in psychiatry : a questionnaire survey	Nakano, W.	精神医学
Open Journal of Psychiatry 2012(2):327-334 (2012年10月)	Plasma levels of catecholamine metabolites and serum levels of brain-derived neurotrophic factor in smokers with schizophrenia treated with varenicline: A pilot study	Nakano, W.	精神医学
最新精神医学 17(6):571-577 (2012年11月)	統合失調症と双極性障害の中間領域の診断に苦慮した1例	矢吹 亜美	精神医学
Journal of Affective Priorder 142:315-322 (2012年12月)	GDP cyclohydrolase 1 gene haplotypes as predictors of SSRI response in Japanese patients with major depressive disorder	Yoshimura, R.	精神医学
臨床精神医学 42(1):107-117 (2013年1月)	アリピプラゾールの双極性障害躁状態に対する効果—有効性の層別解析および有害事象に関する分析—	堀 輝	精神医学
Biomedical Chromatography 27(6):688-690 (2013年1月)	Determination of paroxetine in serum treated with simple pretreatment by pre-column high-performance liquid chromatography using 4-(5,6-dimethoxy-2-phthalimidinyl)-2-methoxyphenylsulfonyl chloride as a fluorescent labeling reagent	Yoshimura, R.	精神医学
J UOEH 35(1):1-8 (2013年1月)	The Effects of a Walking Intervention on Depressive Feelings and Social Adaptation in Healthy Workers	Sugita, A.	精神医学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Clinical Psychopharmacology 33(1):142-143 (2013年2月)	Serum Brain-Derived Neurotrophic Factor Levels at 6 Months After Remission Are Not Associated With Subsequent Depressive Episodes	Yoshimura, R.	精神医学
PLOS ONE 8(2):1-8 (2013年2月)	Nationwide Survey of Work Environment, Work-Life Balance and Burnout among Psychiatrists in Japan	Nakano, W.	精神医学
日本禁煙学会雑誌 8(1):13-20 (2013年3月)	バレニクリン(チャンピックス)による12週治療成績の検討	中野 和歌子	精神医学
Human Psychopharmacology 28:198-202 (2013年3月)	Plasma catecholamine metabolite levels and the activities of psychiatric symptoms in systemic lupus erythematosus	Sugita, A.	精神医学
Obesity Research & Clinical Practice epub (2012年8月)	Decreased plasma levels of brain-derived neurotrophic factor and its relationship with obesity and birth weight in obese Japanese children	Araki, S.	小児科学
臨床血液 53(4):455-459 (2012年4月)	同種骨髄移植後に発症しステロイドが有効であった間質性肺炎に伴ったair-leak syndrome	本田 裕子	小児科学
Eur J Endocrinol 73(6):623-628 (2012年6月)	Functional characterization of four novel PAX8 mutations causing congenital hypothyroidism: new evidence for haploinsufficiency as a disease mechanism	Araki, S.	小児科学
Hum Immunol 73(6):623-628 (2012年6月)	NKRP1A+ γ δ and α β T cells are preferentially induced in patients with Salmonella infection	Kusuhara, K.	小児科学
N Engl J Med 366:2390-2396 (2012年6月)	Thrombosis from a prothrombin mutation conveying antithrombin resistance	Miyawaki, Y.	小児科学
Pediatr Int 54(4):552-555 (2012年8月)	Successful treatment of a patient with tumor necrosis factor receptor-associated periodic syndrome using a half-dose of etanercept	Kusuhara, K.	小児科学
J Child Neurol 27(12):1529-1533 (2012年12月)	Survey of subacute sclerosing panencephalitis in Japan	Kusuhara, K.	小児科学
Clin Genet 81(4):399-402 (2012年12月)	Association of genomic deletion in the STXBP1 gene with Ohtahara syndrome	Shimono, M.	小児科学
日本小児科学会雑誌 116(12):1875-1879 (2012年12月)	長期間の偏食によりヨード欠乏性甲状腺機能低下症を来した自閉症スペクトラムの一例	後藤 元秀	小児科学
脳と発達 45:58-61 (2013年1月)	ACTH療法が著効したEpileptic Spasms without Hypsarrhythmiaの2例	下野 昌幸	小児科学
Brain Tumor Pathol 29:113-120 (2012年4月)	Rapid progression of rhabdoid components of a composite high-grade glioma and rhabdoid tumor in the occipital lobe of an adult	山本 淳考	脳神経外科学
Animal Models of Acute Neurological Injuries II 1:539-552 (2012年5月)	Biochemical Assessments of Cerebral Vasospasm: Measurement of cGMP, PKC, and PTK in Cerebral Arteries	Nishizawa, S.	脳神経外科学
ALA-Porphyrin Science 2:61-66 (2012年7月)	A pitfall of fluorescence-guided surgery with 5-aminolevulinic acid for the treatment of malignant brain tumor -case report-	Yamamoto, J.	脳神経外科学
Neurological Surgery 40(7):585-591 (2012年7月)	rt-PA静注療法におけるASPECTS-DWI, MRAの役割: 転帰との関連について	Idei, M.	脳神経外科学
Genes Cancer 3:535-549 (2012年9月)	Overexpression of CD99 Increases the Migration and Invasiveness of Human Malignant Glioma Cells	Yamamoto, J.	脳神経外科学
脳神経外科ジャーナル 21(10):801-807 (2012年10月)	腫瘍内出血で発症し、急速に意識障害をきたした小児 anaplastic meningioma	梅村 武部	脳神経外科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Neurologia medico-chirurgica 52(10):741-744 (2012年10月)	Spontaneous hemorrhage from orbital cavernous hemangioma resulting in sudden onset of ophthalmopathy in an adult	山本 淳考	脳神経外科学
Neurosurgical Emergency 17(2):145-151 (2012年12月)	急性期破裂脳動脈瘤患者にみられる心機能異常および呼吸障害の検討	北川 雄大	脳神経外科学
脳血管攣縮 28:19-23 (2013年2月)	ラットくも膜下出血モデルにおける early brain injuryのイメージング	山本 淳考	脳神経外科学
日本手外科学会雑誌 28(6):632-635 (2012年4月)	手背部軟部組織欠損に対するV.A.C.ATS治療システムを用いた効果的治療方法	善家 雄吉	整形外科
Case report of oncology 5(2):267-370 (2012年5月)	Total vertebrectomy for non-small cell lung cancer	Ohtomo, H.	整形外科
J Bone Joint Surg Am 94(17):1597-1604 (2012年9月)	Mechanical Comparison of Novel Bioabsorbable Plates with Titanium Plates and Small-Series Clinical Comparisons for Metacarpal Fractures	Sakai, A.	整形外科
Vaccine 31(1):27-30 (2012年12月)	Subacromial bursitis following human papilloma virus vaccine misinjection	Uchida, S.	整形外科
整形・災害外科 55(12):1573-1579 (2012年12月)	背側天蓋状骨片または関節内陥頓骨片を伴った橈骨遠位端骨折の検討	善家 雄吉	整形外科
Journal of Dermatological Science 66(1):82-84 (2012年4月)	Heparin serves as a natural stimulant of the inflammasome and exacerbates the symptoms of tumor necrosis factor receptor-associated periodic syndrome(TRAPS)	Ohmori, S.	皮膚科学
Journal of the American Academy of Dermatology 66(5):182-284 (2012年5月)	A high serum concentration of chemerin in pustular dermatitis paradoxically induced by etanercept	Sawada, Y.	皮膚科学
European Journal of Dermatology 22(3):418-419 (2012年5月)	Increased human herpes virus 6 DNA detected by real-time PCR in the saliva of two patients with drug-induced hypersensitivity syndrome	Yoshioka, M.	皮膚科学
The Journal of Dermatology 39(5):507-509 (2012年5月)	Tuberculosis verrucosa cutis with elevation of circulating T-helper 1 and 17 cells and their reductions after successful treatment	Fukamachi, S.	皮膚科学
臨床皮膚科 66(8):569-572 (2012年7月)	抗上皮成長因子受容体抗体薬による長睫毛症の1例	大森 俊	皮膚科学
Clinical Cancer Research 18(14):3772-3779 (2012年7月)	Defective Epidermal Innate Immunity and Resultant Superficial Dermatophytosis in Adult T-cell Leukemia/Lymphoma	Sawada, Y.	皮膚科学
Journal of Dermatological Science 67(1):37-43 (2012年7月)	A group of atopic dermatitis without IgE elevation or barrier impairment shows a high Th1 frequency: Possible immunological state of the intrinsic type	Kubo, R.	皮膚科学
The Journal of Dermatology 39(8):740-741 (2012年8月)	Primary cutaneous nocardiosis caused by Nocardia beijingensis in an immunocompromised patient with chemotherapy for advanced prostate cancer	Ohmori, S.	皮膚科学
臨床皮膚科 66(10):793-796 (2012年9月)	急速に死の転帰を辿り生検で分類不能肉腫が疑われた1例	吉岡 学	皮膚科学
J Dermatol 39(9):814-815 (2012年9月)	Connexin 26 (GJB2) mutations in keratitis-ichthyosis-deafness syndrome presenting with squamous cell carcinoma	Yoshiki, R.	皮膚科学
International Journal of Dermatology 51(9):1104-1106 (2012年9月)	Occupational skin cancer arising in a patient with a high frequency of circulating regulatory T cells	Ohmori, S.	皮膚科学
Meranoma Res. 22(5):362-367 (2012年10月)	The benefit of a sentinel lymph node biopsy and adjuvant therapy in thick (>4 mm) melanoma: multicenter, retrospective study of 291 Japanese patients	Hino, R.	皮膚科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Allergology International 61(4):539-544 (2012年12月)	Pathogenesis of Cholinergic Urticaria in Relation to Sweating	Bito, T.	皮膚科学
Journal of Dermatological Science 69(1):6-29 (2013年1月)	Mutant laboratory mice with abnormalities in hair follicle morphogenesis, cycling, and/or structure: An update	Nakamura, M.	皮膚科学
皮膚臨床 55(1):120-121 (2013年1月)	ヘテロ接合型Lipase H (LIPH) 遺伝子変異による先天性縮毛症・乏毛症の1例	中村 元信	皮膚科学
J Dermatol Sci 69(2):159-166 (2013年2月)	GJB6, of which mutations underlie Clouston syndrome, is a potential direct target gene of p63	Nakamura, M.	皮膚科学
Leuk Lymphoma 54(3):520-527 (2013年3月)	Combination of skin-directed therapy and oral etoposide for smoldering adult T-cell leukemia/lymphoma with skin involvement	Sawada, Y.	皮膚科学
Clin Immunol 148(1):1-3 (2013年3月)	Defective epidermal induction of S100A7/psoriasin associated with low frequencies of skin-infiltrating Th17 cells in dermatophytosis-prone adult T cell leukemia/lymphoma	Sawada, Y.	皮膚科学
Journal of UOEH 34(2):201-206 (2012年4月)	画像上拡大傾向を示した腭漿液性嚢胞腺腫の1例	皆川 紀剛	第1外科学
Oncology Letters 2:970-974 (2012年5月)	The clinical usefulness of urinary N(1),N(12)-diacetylspermine (DiAcSpm) levels as a tumor marker in patients with colorectal cancer	Nakayama, Y.	第1外科学
膵臓 27(4):563-571 (2012年5月)	IPMN由来浸潤癌とIPMN併存膵癌	山口 幸二	第1外科学
Journal of Hepato Biliary Pancreatic Sciences 19(3):210-215 (2012年5月)	Pancreatoduodenectomy for bile duct and ampullary cancer	Yamaguchi, K.	第1外科学
Clinical Journal of Gastroenterology 5:307-311 (2012年7月)	Synchronous occurrence of early neuroendocrine carcinoma and tubular adenocarcinoma in the stomach	Nakayama, Y.	第1外科学
World Journal of Gastroenterology 18(34):4794-4797 (2012年9月)	Development of perianal ulcer as a result of acute fulminant amoebic colitis	Torigoe, T.	第1外科学
J Gastrointest Surg 17:668-674 (2012年12月)	Routine Intraoperative Cholangiography During Single-Incision Laparoscopic Cholecystectomy: a Review of 196 Consecutive Patients	Sato, N.	第1外科学
日本外科系連合学会誌 38(1):184-189 (2013年2月)	Reduced port surgeryにて治療した子宮広間膜裂孔ヘルニアの1例	鳥越 貴行	第1外科学
Lung Cancer 76(1):129-130 (2012年4月)	T790M is associated with a favorable prognosis in Japanese patients treated with an EGFR-TKI	Uramoto, H.	第2外科学
Clin Lung Cancer 13(3):220-224 (2012年5月)	Results of a surgical resection for patients with stage IV non-small cell lung cancer	Hanagiri, T.	第2外科学
Case Rep Oncol 5(2):267-270 (2012年5月)	Total vertebrectomy for non-small cell lung cancer	Kuwata, T.	第2外科学
Cancer Sci. 103(5):868-874 (2012年5月)	Frequent inactivation of the BAP1 gene in epithelioid-type malignant mesothelioma	Tanaka, F.	第2外科学
World J Surg Oncol 10(1):108-108 (2012年6月)	Temporal trends in the surgical outcomes of patients with breast cancer	Hanagiri, T.	第2外科学
Interact Cardiovasc Thorac Surg 14(6):760-764 (2012年6月)	Survival impact of node zone classification in resected pathological N2 non-small cell lung cancer	Uramoto, H.	第2外科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Front Biosci (Schol Ed) 1(4):1539-1546 (2012年6月)	Cytochrome P450 in non-small cell lung cancer related to exogenous chemical metabolism.	Uramoto, H.	第2外科学
Interact Cardiovasc Thorac Surg 15(1):73-76 (2012年7月)	The tumour shape of lung adenocarcinoma is related to the postoperative prognosis	Baba, T.	第2外科学
Cancer Sci 103(8):1414-1419 (2012年8月)	Antitumor activity of human $\gamma \delta$ T cells transduced with CD8 and with T-cell receptors of tumor-specific cytotoxic T lymphocytes	Hanagiri, T.	第2外科学
Anticancer Res 32(9):3785-3790 (2012年9月)	Prognostic value of acquired resistance-related molecules in Japanese patients with NSCLC treated with an EGFR-TKI	Uramoto, H.	第2外科学
Anticancer Res 32(9):3953-3960 (2012年9月)	Prediction of recurrence after complete resection in patients with NSCLC	Uramoto, H.	第2外科学
Case Rep Oncol 5(3):542-545 (2012年9月)	Circulating tumor cells as a potential biomarker in selecting patients for pulmonary metastasectomy from colorectal cancer: report of a case	Tanaka, F.	第2外科学
Asian J Surg 35(4):144-148 (2012年10月)	Results of surgical resection for patients with thymoma according to World Health Organization histology and Masaoka staging	Hanagiri, T.	第2外科学
Oncology Letters 4 4(4):625-636 (2012年10月)	Immunosuppressive effect of regulatory T lymphocytes in lung cancer, with special reference to their effects on the induction of autologous tumor-specific cytotoxic T lymphocytes	Shigematsu, Y.	第2外科学
J Cardiothorac Surg 17(7):112-112 (2012年10月)	What factors predict recurrence of a spontaneous pneumothorax?	Uramoto, H.	第2外科学
Int J Clin Oncol epub (2012年11月)	Clinical significance of human leukocyte antigen loss and melanoma-associated antigen 4 expression in smokers of non-small cell lung cancer patients	Baba, T.	第2外科学
Cell. 151(5):937-950 (2012年11月)	MED12 controls the response to multiple cancer drugs through regulation of TGF- β receptor signaling	Uramoto, H.	第2外科学
Ann Surg Oncol 19(13):4229-4237 (2012年12月)	Circulating endothelial cell (CEC) as a diagnostic and prognostic marker in malignant pleural mesothelioma (MPM)	Tanaka, F.	第2外科学
Respir Investig 50(4):151-156 (2012年12月)	Prognostic factors before and after recurrence of resected non-small cell lung cancer	Baba, T.	第2外科学
Tumour Biol 33(6):2135-2141 (2012年12月)	Effects of hyaluronic acid and CD44 interaction on the proliferation and invasiveness of malignant pleural mesothelioma	Hanagiri, T.	第2外科学
Surg Today 43(6):648-653 (2013年1月)	Intrapleural chemotherapy improves the survival of non-small cell lung cancer patients with positive pleural lavage cytology	Baba, T.	第2外科学
Asian J Surg 36(1):40-42 (2013年1月)	Preoperative embolization followed by palliative therapy for patients unable to undergo the complete removal of a chronic expanding hematoma—a case report.	Uramoto, H.	第2外科学
Int J Clin Oncol. epub (2013年1月)	Frequency of epidermal growth factor receptor mutations in Bangladeshi patients with adenocarcinoma of the lung	Tanaka, F.	第2外科学
Current Cancer Drug Targets 13(4):444-459 (2012年5月)	Castration-resistant Prostate Cancer: Novel Therapeutics Pre- or Post-Taxane Administration	N. Fujimoto	泌尿器科学
International Journal of Antimicrobial Agents 39(3):268-269 (2012年6月)	Mechanism of resistance of a highly carbapenem-resistant <i>Klebsiella oxytoca</i> isolate and comparison of susceptibility to five carbapenems	T. Sho	泌尿器科学
Journal of Infection and Chemotherapy 18(3):410-413 (2012年6月)	Should urologists care for the pharyngeal infection of <i>Neisseria gonorrhoeae</i> or <i>Chlamydia trachomatis</i> when we treat male urethritis?	R. Hamasuna	泌尿器科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Infection and Chemotherapy 18(4):597-607 (2012年8月)	Sensitivities of major causative organisms isolated from patients with acute uncomplicated cystitis against various antibacterial agents: results of subanalysis based on the presence of menopause	T. Matsumoto.	泌尿器科学
Journal of Infection and Chemotherapy 19:1-11 (2013年1月)	Identification of treatment strategies for Mycoplasma genitalium-related urethritis in male patients by culturing and antimicrobial susceptibility testing	Hamasuna, R.	泌尿器科学
Journal of Infection and Chemotherapy 19(1):112-117 (2013年1月)	A randomized clinical trial to evaluate the preventive effect of cranberry juice (UR65) for patients with recurrent urinary tract infection	Hamasuna, R.	泌尿器科学
西日本泌尿器科 75(2):95-98 (2013年2月)	副腎血管腫瘍内皮細胞の1例	濱崎 隆志	泌尿器科学
眼科臨床紀要 5(4):387-391 (2012年4月)	小眼球症に伴う眼窩発育異常の画像評価	近藤 寛之	眼科学
眼科臨床紀要 5(4):377-381 (2012年4月)	ペバシズマブ硝子体内投与併用網膜光凝固術が奏功した重症未熟児網膜症の3例	近藤 寛之	眼科学
Journal of Cataract&Refractive Surgery 38(7):1156-1165 (2012年5月)	Higher-order aberrations and visual function in pseudophakic eyes with a toric intraocular lens	近藤 寛之	眼科学
Japanese Journal of Ophthalmology 56(4):396-400 (2012年5月)	Novel compound heterozygous mutations in the MFRP gene in a Japanese patient with posterior microphthalmolmos	Kondo, H.	眼科学
Ophthalmologica 228(3):181-187 (2012年9月)	Potential Preventive Effects of a New Visual Intervention for Accommodative Insufficiency and Asthenopia due to Sustained Near Task	Nagata, T.	眼科学
耳鼻臨床 105:339-343 (2012年4月)	外来小児患者における鼻咽腔検出菌の検討	橋田 光一	耳鼻咽喉科学
Laryngoscope 122:1154-1157 (2012年5月)	Efficacy of intratympanic steroid administration on idiopathic sudden sensorineural hearing loss in comparison with hyperbaric oxygen therapy	Suzuki, H.	耳鼻咽喉科学
耳鼻臨床 105:457-461 (2012年5月)	ガストログラフィン嚥下後のCTが有用であった下咽頭梨状陥凹瘻例	加藤 明子	耳鼻咽喉科学
Commun Integr Biol 5:312-315 (2012年7月)	In vitro morphological bud formation in organ-like three-dimensional structure from mouse ES cells induced by FGF10 signaling	Ohbuchi, T.	耳鼻咽喉科学
J Med Case Reports 6:140-140 (2012年7月)	Thyroid gland cutaneous fistula secondary to a migratory fish bone: a case report	Ohbuchi, T.	耳鼻咽喉科学
Auris Nasus Larynx 39:634-637 (2012年7月)	Coexistence of pyriform sinus fistula, ectopic lingual thyroid, and ectopic cervical thymus	Ohbuchi, T.	耳鼻咽喉科学
耳鼻臨床 105(8):779-785 (2012年8月)	頸部滑膜肉腫例	加藤 明子	耳鼻咽喉科学
耳鼻臨床 105(8):793-796 (2012年8月)	深頭部膿瘍症例の臨床統計	竇地 信介	耳鼻咽喉科学
Int Arch Allergy Immunol 159:33-40 (2012年8月)	Synergism of Staphylococcus aureus colonization and allergic reaction in the nasal cavity in mice	Hohchi, N.	耳鼻咽喉科学
耳鼻臨床 105:973-980 (2012年10月)	上顎骨褐色腫を合併した原発性副甲状腺機能亢進症例	若杉 哲郎	耳鼻咽喉科学
耳鼻臨床 105:1059-1063 (2012年11月)	耳下腺内顔面神経鞘腫の3例	加藤 明子	耳鼻咽喉科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
耳鼻臨床 105:1079-1083 (2012年11月)	急性喉頭蓋炎64例の検討	小泉 弘樹	耳鼻咽喉科学
J UOEH 34:231-235 (2012年12月)	耳硬化症に対するアブミ骨手術後の骨導聴力の変化	大淵 豊明	耳鼻咽喉科学
耳喉頭頭 84:945-949 (2012年12月)	眼窩内腫瘍を契機に発見された原発性肺癌例	加藤 明子	耳鼻咽喉科学
耳喉頭頭 84:951-955 (2012年12月)	乳幼児副咽頭間隙膿瘍5症例の検討	加藤 明子	耳鼻咽喉科学
耳鼻臨床 106:179-182 (2013年1月)	頭蓋外仮性頸動脈瘤例	橋田 光一	耳鼻咽喉科学
Eur Arch Otorhinolaryngol 270:945-951 (2013年3月)	Different expressions of erbB1/2 and tight junction proteins in hypertrophic inferior turbinates and nasal polyps	Suzuki, H.	耳鼻咽喉科学
口咽科 26(1):97-103 (2013年3月)	長期生存した中咽頭腺様嚢胞癌遠隔転移例	若杉 哲郎	耳鼻咽喉科学
Skeletal Radiol 41(4):409-414 (2012年4月)	Osteosclerotic lesions in patients treated with gefitinib for lung adenocarcinomas : a sign of favorable therapeutic response	山下 慶子	放射線科学
Eur J Radiol 23(4):1102-1111 (2012年4月)	Parkinson's disease: diagnostic potential of high-resolution phase difference enhanced MR imaging at 3 T	掛田 伸吾	放射線科学
Lung Cancer 77:140-145 (2012年4月)	Re-irradiation plus regional hyperthermia for recurrent non-small cell lung cancer : A potential modality for inducing long-term survival in selected patients	大栗 隆行	放射線科学
Radiology 264(2):590-596 (2012年5月)	Adenocarcinomas with predominant ground-glass opacity: correlation of morphology and molecular biomarkers	青木 隆敏	放射線科学
Journal of Radiation Research 53:735-741 (2012年5月)	Cancer of the pelvis: definitive three-dimensional conformal radiotherapy for patients with isolated recurrence in the para-aortic lymphnodes	矢原 勝哉	放射線科学
Eur J Radiol 81(5):1062-1067 (2012年5月)	Usefulness of computerized method for lung nodule detection on digital chest radiographs using similar subtraction images from different patients	青木 隆敏	放射線科学
Eur J Radiol 81(6):1335-1339 (2012年6月)	Thin-section chest CT findings in systemic lupus erythematosus with antiphospholipid syndrome: A comparison with systemic lupus erythematosus without antiphospholipid syndrome	大木 穂高	放射線科学
Radiology 264(3):852-858 (2012年9月)	Delineation of optic nerves and chiasm in close proximity to large suprasellar tumors with contrast-enhanced FIESTA MR imaging	渡邊 啓太	放射線科学
Acad Radiol. 19(10):1283-1289 (2012年10月)	Delineation of optic radiation and stria of Gennari on high-resolution phase difference enhanced imaging	井手 智	放射線科学
Acad Radiol. 19(10):1225-1232 (2012年10月)	Pitfalls of 3D FLAIR brain imaging: a prospective comparison with 2D FLAIR	掛田 伸吾	放射線科学
臨床麻酔 36(4):667-668 (2012年4月)	ポーランド症候群患者の麻酔経験	高橋 良宏	麻酔科学
Amino Acids 43(1):397-404 (2012年6月)	Antinociceptive effect of intrathecal administration of hypotaurine in rat models of inflammatory and neuropathic pain	Hara, K.	麻酔科学
Immunol and cell biology 90(8):796-781 (2012年9月)	Impaired ability of burn patient neutrophils to stimulate β -defensin production by keratinocytes	Kawasaki, T.	麻酔科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Pharmacological sciences 120(1):54-58 (2012年9月)	Inhibition by pregnenolone sulphate, a metabolite of the neurosteroid pregnenolone, of voltage-gated sodium channels expressed in xenopus oocytes	Horishita, T.	麻酔科学
臨床麻酔 36(10):1476-1478 (2012年10月)	未知の甲状腺管嚢胞により換気と挿管困難であった乳児の1例	大久保 晴香	麻酔科学
Journal of anesthesia 26(6):883-891 (2012年12月)	The effects of estrogen on various organs: therapeutic approach for sepsis, trauma, and reperfusion injury. Part 1: central nervous system, lung, and heart	Kawasaki, T.	麻酔科学
Journal of anesthesia 26(6):892-899 (2012年12月)	The effects of estrogen on various organs: therapeutic approach for sepsis, trauma, and reperfusion injury. Part 2: liver, intestine, spleen, and kidney	Kawasaki, T.	麻酔科学
麻酔 62(1):75-77 (2013年1月)	スガマデクスによる全身麻酔下帝王切開の手術室運営効率化	濱田 高太郎	麻酔科学
麻酔 62(2):217-219 (2013年2月)	側臥位が原因となった術後総腓骨神経および脛骨神経障害	木田 健太郎	麻酔科学
臨床麻酔 37(2):171-174 (2013年2月)	開頭術中の血中カリウム値変動の検討:開頭術中マニトール投与により高カリウム血症をきたした症例	南 智子	麻酔科学
J UOEH 34(2):175-182 (2012年4月)	Stabilizing Transpelvic Prosthetic Socket for a Patient with Spinal Cord Injury Sustaining Right Partial Hemipelvectomy and Left Hip Disarticulation	Nakanishi, Y.	リハビリテーション科学
Neurocase 18(3):212-216 (2012年6月)	Failure to paint the left quarter of a watercolor and no error in a line drawing: A case report of an art teacher with unilateral spatial neglect	Kondo, M.	リハビリテーション科学
Prosthet Orthot Int 36(2):196-202 (2012年6月)	Community-based survey of amputation derived from the physically disabled person's certification in Kitakyushu City, Japan	Ohmine, S.	リハビリテーション科学
Jpn J Rehabil Med 49(8):512-517 (2012年8月)	腕神経叢損傷後の複合性局所疼痛症候群にドラッグチャレンジテストが有用であった1例	蜂須賀 明子	リハビリテーション科学
Bulletin of Kyushu Nutrition Welfare University 9:213-221 (2012年12月)	Lower Extremity Local Muscle Oxygenation Kinetics during High Intensity Exercise in Smokers and Patients with COPD	Kimura, Y.	リハビリテーション科学
J Rehabil Med 45(2):137-140 (2013年1月)	Effects of anodal and cathodal transcranial direct current stimulation combined with robotic therapy on severely affected arms in chronic stroke patients	Ochi, M	リハビリテーション科学
J UOEH 35(1):9-16 (2013年1月)	Differences in the Peak Cough Flow among Stroke Patients With and Without Dysphagia	Kimura, Y.	リハビリテーション科学
Histology and Histopathology 27(5):593-599 (2012年5月)	Prognostic significance of BAF57 expression in patients with endometrial carcinoma	Kagami, S.	産婦人科学
International Journal of Women's Health 4:207-212 (2012年5月)	Trends in the demographic and clinicopathological characteristics in Japanese patients with endometrial cancer, 1990-2010	Honda, T.	産婦人科学
日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 28(1):466-470 (2012年8月)	輸血拒否患者に対する婦人科内視鏡手術の経験	松浦 祐介	産婦人科学
日本周産期・新生児医学会雑誌 48(4):845-849 (2013年1月)	経会陰3次元超音波検査を用いた新しい分娩監視法	西村 和朗	産婦人科学
福岡産科婦人科学会雑誌 36(2):9-13 (2013年3月)	診断が困難であったEndometrial intraepithelial carcinoma(EIC)の一例	栗田 智子	産婦人科学
日本臨床細胞学会雑誌 52(2):87-95 (2013年3月)	液状処理法と従来法での採取器具による子宮頸部細胞像の比較検討	松浦 祐介	産婦人科学

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本口腔外科学会雑誌 58(9):526-530 (2012年9月)	上唇粘膜部に発生した腺房細胞癌の2例	宮脇 昭彦	歯科・口腔外科学
日本口腔外科学会雑誌 58(12):728-732 (2012年12月)	腎透析患者の上顎歯槽部に生じた異所性石灰化の1例	宮脇 昭彦	歯科・口腔外科学
Biochem Biophys Res Commun 430:889-894 (2013年1月)	The transcription factor snail enhanced the degradation of E-cadherin and desmoglein 2 in oral squamous cell carcinoma cells	Miyawaki, A.	歯科・口腔外科学
腎と透析 2012 72:22-27 (2012年6月)	カテーテル機能の検証 ー良い腹膜アクセスとは?ー	椛島 成利	腎センター
Circ J 76(10):2481-2487 (2012年6月)	Different influences of left ventricular remodeling on anterior and posterior mitral leaflet tethering	中井 博美	腎センター
Pacing Clin Electrophysiol, 35:189-192 (2012年7月)	An adverse effect of a long AV delay during DDI pacing and its prevention by the ventricular intrinsic preference algorithm in DDD mode	南口 仁	腎センター
臨床透析 2012 28:1277-1282 (2012年8月)	維持血液透析導入約1ヶ月後に急性心不全を来した症例	石松 菜那	腎センター
Intern Med 51(16):2119-2124 (2012年8月)	Proposed cutoff level of waist circumference in Japanese men: evaluation by homeostasis model assessment of insulin resistance levels	亀崎 文彦	腎センター
腎と透析 2012 73:203-204 (2012年8月)	CAVA semi-long catheter seriesの性能 ー注・排液速度の検討ー	久間 昭寛	腎センター
腎と透析 2012 73:37-40 (2012年11月)	新規ポリスルホン透析膜(NV-U)の臨床使用経験	宮崎 三枝子	腎センター
Pathol Res Pract2012 208:318-322 (2012年5月)	Unilateral gynecomastia and pseudoangiomatous stromal hyperplasia in neurofibromatosis: case report and review of the literature	木村 聡	病理・臨床検査・輸血部
Mod Rheumatol 22(3):327-38 (2012年6月)	Effectiveness and safety of adalimumab in Japanese patients with rheumatoid arthritis: retrospective analyses of data collected during the first year of treatment in routine clinical practice (HARMONY study)	平田 信太郎	病理・臨床検査・輸血部
Mod Rheumatol 22(5):769-773 (2012年9月)	A case of catastrophic antiphospholipid antibody syndrome complicated with systemic lupus erythematosus, double positive for anti-cardiolipin/ β_2 glycoprotein I and anti-phosphatidylserine/prothrombin autoantibodies	平田 信太郎	病理・臨床検査・輸血部
Pathol Int.2012 62:675-83 (2012年10月)	Expression of Macrophage-derived Chemokine (CCL22) in Atherosclerosis and Regulation by Histamine via the H2 receptor	木村 聡	病理・臨床検査・輸血部
Mod Rheumatol 23(2):219-225 (2013年3月)	Validation of different sets of criteria for the diagnosis of Sjögren's syndrome in Japanese patients	平田 信太郎	病理・臨床検査・輸血部
Mod Rheumatol 23(2):284-296 (2013年3月)	Elevation of KL-6 serum levels in clinical trials of tumor necrosis factor inhibitors in patients with rheumatoid arthritis: a report from the Japan College of Rheumatology Ad Hoc Committee for Safety of Biological DMARDs	平田 信太郎	病理・臨床検査・輸血部
Mod Rheumatol 23(2):297-303 (2013年3月)	A retrospective study of serum KL-6 levels during treatment with biological disease-modifying antirheumatic drugs in rheumatoid arthritis patients: a report from the Ad Hoc Committee for Safety of Biological DMARDs of the Japan College of Rheumatology	平田 信太郎	病理・臨床検査・輸血部
Mod Rheumatol 23(2):401-405 (2013年3月)	Successful treatment of osteomalacia caused by renal tubular acidosis associated with Sjögren's syndrome	平田 信太郎	病理・臨床検査・輸血部

238件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
がん看護セレクション がん放 射線治療 :201-203 (2012年10月)	セルフケアを重視した患者指導支援	田中 由希	看護部
労働科学 88(4):148-153 (2013年1月)	働くがん患者への就業支援に関する現状調査	立石 清一郎	産業医実務研修センター 240件

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	松本 哲朗				
管理担当者氏名	医療情報部長	松田 晋哉	放射線部長	興梠 征典	
	看護部長	小竹 友子	薬剤部長	浅原 稔生	
	病院管理課長	吉田 剛	医事課長	田中 和寿	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		病歴室 薬剤部 放射線部 看護部 各診療科外来 病院管理課	月別にて電子カルテ及びそれぞれの部署にてファイル形式において、管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課	毎年度ごとに電子媒体において管理及びファイルにおいても管理している。
	高度の医療の提供の実績	病院管理課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課	
	高度の医療の研修の実績	病院管理課	
	閲覧実績	病院管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課及び薬剤部		
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項各号及び第九条の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部及び病院管理課	毎年度ごとに電子媒体において管理及びファイルにおいても管理している。
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部及び病院管理課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部及び病院管理課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部及び病院管理課	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部及び病院管理課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理部及び病院管理課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部及び病院管理課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一條の十一第一項各号及び第九條の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	毎年度ごとに電子媒体において管理及びファイルにおいても管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況		
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院事務部長 辻塚 勲
閲覧担当者氏名	病院管理課長 吉田 剛、病院管理課課長代理 土井 四郎
閲覧の求めに応じる場所	診療情報等閲覧室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	81.5%	算定期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		14,335人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		11,350人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,888
	D: 初診の患者の数		22,442

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 安全管理に関する基本的考え方 安全管理のための委員会に関する基本的事項等	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 2 7 回
(医療安全対策委員会 1 2 回、医療事故防止委員会 1 5 回)	
・ 活動の主な内容： 1) 医療安全対策の検討に関すること。 2) 医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること。 3) 医療安全対策並びに医療事故防止のための啓発、教育及び広報に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 9 回
・ 研修の主な内容： 1) 医療安全対策に関すること。 2) 医療事故防止に関すること。 3) 医薬品安全使用に関すること。 4) 医療機器安全使用に関すること。	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <平成24年度> 1) タイムアウト実施時の確認項目に「アレルギーの確認」を追加 2) インスリン一覧表改定(ラインナップ表にして各部署配布) 3) 救急カートチェックファイル作成(全部書基本バージョン配布) 4) 転倒予防のためのDVD作成およびDVDを用いてのKYT研修実施 5) 新規開設病棟(3W、4W)ラウンドにより環境改善の提言 6) 胸部外科手術において、内視鏡曇り止め用の温水の持込廃止 7) 病理システム構築のためのワーキンググループ設置 8) 眼科手術時の点眼には注射器使用中止し、スポイド使用へ変更 9) 衝突防止ミラー増設 10) 手術実施中、診療科交代の場合のタイムアウト実施開始 11) 薬物乱用事案と捜査協力についての研修	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(2名)・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(3名)・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
医療安全管理部 専任(2)名 兼任(6)名 専任：医療安全管理者(1名)、医療安全担当職員(1名) 兼任：部長(1名)、医薬品安全管理責任者(1名)、医療機器安全管理者(1名)、 医師(3名)	

感染制御部

専任（ 3 ）名 兼任（ 6 ）名

（専任：感染制御担当医師（ 1 名）病院感染対策者（ 1 名）感染制御担当職員（ 1 名）

兼任：部長（ 1 名）感染制御担当医師（ 1 名）感染制御担当職員（ 4 名）

※医療安全対策にかかる事務部門：病院事務部病院業務係（ 4 名）

・ 活動の主な内容：

- 1) 委員会で用いられる資料の作成に関する事。
- 2) 医療事故及び病院感染に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び指導に関する事。
- 3) 患者や家族への説明など医療事故及び病院感染発生時の対応状況についての確認及び指導に関する事。
- 4) 医療事故及び病院感染の原因究明が適切に実施されていることの確認及び指導に関する事。
- 5) 医薬品に係る安全管理及び使用に関する事。
- 6) 医療機器に係る保守点検及び安全使用に関する事。
- 7) 医療安全対策に係る連絡調整に関する事。
- 8) その他医療安全対策の推進に関する事。

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

⑦・無

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：本院では、医療にかかわる安全管理の指針と一体的に策定している。<ul style="list-style-type: none">① 医療安全対策・病院感染防止に関する基本的考え方② 医療安全対策・病院感染防止の為に委員会に関する基本的事項等③ 標準予防策＋感染経路別予防策等感染防止対策各論	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 17 回
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容： 医療安全対策委員会12回、病院感染防止委員会17回<ul style="list-style-type: none">① 医療安全対策の検討及び研究② 病院感染の分析及び再発防止策の検討に関する事。③ 病院感染防止のための啓発、教育及び広報に関する事。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">① 手洗いキャンペーン② E S B L 産生菌について③ 感染対策に役立つ耐性菌の知識④ 感染防止マニュアルの変更点	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">① 感染制御部ニュースの発行にて広報② セーフティーマネージャー連絡会議を通じて広報③ 委員会を通じて広報・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">① 手洗い石鹸自動ポンプの順次設置② 病院職員の抗体価検査と予防接種の実施 (麻疹、水痘、風疹、ムンプス)③ 病院感染サーベイランスの実施④ 感染性廃棄物分別の徹底⑤ 抗菌薬適正使用セミナーの開催⑥ ニトリル手袋の採用⑦ 地域連携の充実⑧ 手術部位感染サーベ開始⑨ 手洗いキャンペーンの実施⑩ 手指衛生周知状況確認書による手洗い状況確認の実施	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
・ 研修の主な内容： 1) ハイリスク薬 2) 麻薬の適正管理と使用 3) インスリン治療のリスクマネジメント 4) 抗凝固薬の適正使用 5) 薬剤のインシデント・アクシデント事例	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： 1) 医薬品の採用 2) 医薬品の購入管理 3) 医薬品の管理 4) 与薬指示・調剤 5) 患者に対する与薬や服薬指導 6) 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱い (収集、提供) 7) 他施設との連携	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) 薬剤師による処方箋・注射箋の疑義照会 2) 薬剤師による病棟及び外来の院内ラウンドの実施 3) インスリン・スライディング・スケールの院内標準化 4) 危険薬の定義と危険薬のリスト作成 5) 医薬品安全使用のための業務手順チェックリストの作成 6) 持参薬の鑑別と初回面談 7) 薬歴ファイルに基づく化学療法処方監査の徹底 8) 入院・外来化学療法患者に対する注射用抗がん剤の調製と服薬指導	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 35回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1) 酸素療法2) 心電図3) モニタの安全管理4) 人工呼吸器5) シリンジポンプの演習6) 救急処置と A E D7) 血液浄化8) 閉鎖式保育器	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 計画の策定 (①・無)・ 保守点検の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1) 人工心肺装置及び補助循環装置2) 人工呼吸器3) 血液浄化装置4) 除細動装置5) 閉鎖式保育器6) 診療用高エネルギー放射線発生装置7) 診療用放射線照射装置	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (①・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1) 医療機器安全管理ワーキングの開催2) 医療機器に関する情報の収集3) 収集した医療事故等の情報を医療安全情報により院内に周知	